

1 単元名

第3章 現代の民主政治と社会 2節 国の政治のしくみ 7 裁判員制度

2 単元の目標

- 身近な話題や事例などを手がかりとしながら、国会・内閣・裁判所の仕組みや役割などに関心を持たせる。また、三権分立によって国民の自由や権利が守られ、民主政治が成り立っていることに気付かせる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 模擬裁判などの体験的な学習を通して、国民の司法参加の意義について考えさせるとともに、司法に参加し公正に判断する態度を育てる。(社会的な思考・判断・表現)
- 国の政治の課題についての資料を収集させ、比較や話し合いを通じて、多面的・多角的に考察させる。(資料活用の技能)
- 国会・内閣・裁判所の地位や役割、相互関係のあらましや国の政治の仕組みについての理解を深めさせる。(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本単元は、指導要領の内容である「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる」ことをねらいとしている単元である。

よって、本単元の学習を通して、国会・内閣・裁判所の仕組みや役割、相互関係について理解させるとともに、三権分立によって国民の権利が守られ、民主政治が成り立っていることに気づかせたい。

4 指導にあたって

普段から大変明るく積極的に発言しようとする生徒が多い学級である。その反面、自分の考えをまとめる場面では自信を持つことができずに、板書を写すだけになってしまうなど消極的な生徒も見られる。

よって、発言する場面を多く設定し、たくさんの生徒に機会を与え学習に参加させたい。また、班での話し合いの場面を多くし、生徒同士の意見交流の中で考えを深めるとともにねらいに迫らせたい。

5 単元の評価規準

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
概ね達成でき	<ul style="list-style-type: none"> ● 国の政治に関心を持ち、学習活動に積極的に取り組んでいる。 ● 裁判員制度をはじめとする司法制度改革について関心を持ち、課題学習に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 議会制民主主義の意義について考えるとともに、国の政治にかかわる様々な事例から課題を見いだして、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国会や内閣の仕事について、様々な資料を収集し、図表などにまとめたりしている。 ● 裁判に関連する国民の権利や、裁判における課題について、法令や判例、新聞記事などから読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国会・内閣・裁判所の仕組みと働きや議院内閣制を中心とする三権分立の仕組みとその意義について理解している。 ● 司法権の独立と法に基づく裁判が憲法で保障されていることを理解し、その知識を身に付けている。

6 単元の指導計画 (全9時間)

(1) 国会の地位としくみ〔国民の代表機関としての国会、二院制、国会の会議と議決〕	1
(2) 国会の働き〔法律の制定、予算の審議・議決、内閣総理大臣の指名、それ以外の国会の仕事〕	1
(3) 行政のしくみと内閣〔行政と内閣、内閣の組織、議院内閣制〕	1
(4) 行政改革〔行政権の拡大、公務員、行政改革〕	1
(5) 裁判所のしくみと働き〔社会生活と法、司法と裁判所、司法権の独立〕	1
(6) 裁判の種類と人権〔民事裁判、刑事裁判、裁判と人権保障〕	1
(7) 裁判員制度〔司法制度改革、裁判員制度、裁判員制度の定着に向けて〕	1 (本時) 7 / 9
(8) 模擬裁判をやってみよう	1
(9) 三権の抑制と均衡〔三権分立、三権の関係、違憲審査制〕	1

7 本時の指導

(1) 本時の目標

瀧国民の司法参加の意義や裁判員制度のあらましを理解することができる。

瀧将来、裁判員に選ばれたらどのような姿勢で臨むべきかを話し合い、司法について参加しようとする意欲を持つことができる。

(2) 展開

過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点(・) 評価(◎)
導入 10分	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習内容へと繋ぐ。 瀧前時の「刑事裁判の課題」の資料を使い、刑事事件の問題点を確認する。 瀧課題解決のために司法制度改革が進められ、その中に裁判員制度があることを確認する。</p> <p>2 本時の課題を設定する。 瀧提示する資料を見て、「裁判員制度」という制度へのイメージを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学習課題 なぜ、裁判員制度は導入されたのか？</p> </div>	<p>瀧生徒の興味を引きつけるため、プリントを使わず、発言させる。</p> <p>瀧裁判員制度に対して消極的になりそうな資料も使い「なぜ」を引き出す。</p>
展開 30分	<p>3 課題に対する予想を考え、発表する。</p> <p>4 裁判員制度についてどのような制度なのかを調べる。 瀧調べて記入したものを発言させながら黒板に板書する。 瀧裁判員制度について、さらに補足説明する。</p> <p>5 もし自分が裁判員に選ばれたらどうするかについて、考えをまとめ、班内で話し合う。</p> <p>6 各班で話し合ったことを発表する。</p>	<p>瀧課題に対する予想を考え、解決までの取り組みを見通す。 瀧予想が考えられない場合は、裁判員制度が導入される前の刑事裁判の課題を思い返させる。</p> <p>瀧学習プリントのQ1・2について調べ、プリントに記入する。</p> <p>◎裁判員について話し合い、司法について参加する意欲を高めているか。</p>
終末 10分	<p>7 教科書を読み、学習した内容について改めて確認する。</p> <p>8 本時のまとめを行い、発表する。 瀧まとめの記入が終わったならば、プリントの裏の語句確認を行う。</p>	<p>瀧プリントの穴埋めを行う。</p> <p>瀧本時の学習を振り返り、まとめをさせる。 瀧最初の1分は自分の力で記入させる。時間を過ぎたら班内で相談させながら行わせる。</p> <p>◎国民の司法参加の意義や裁判員制度のあらましを理解しているか。</p>